

令和5年10月24日 発表

# 中小企業月次景況調査結果

## 令和5年9月分

～令和5年9月 データから見た業界の動き～

令和5年10月24日 発表

製造業・非製造業ともに売上高・景況感が低下  
先行きの仕事確保と消費活動の低迷を懸念する声が多数



## 山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215 FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

## ～令和5年9月 データから見た業界の動き～

令和5年10月24日 発表

製造業・非製造業ともに売上高・景況感が低下

先行きの仕事確保と消費活動の低迷を懸念する声が多数

### ■ 概 況

9月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 ▲4ポイント（前年同月比 10ポイント↓）

収益状況 ▲8ポイント（前年同月比 12ポイント↑）

景況感 ▲20ポイント（前年同月比 14ポイント↓）となり、

売上高・景況感D.I値が前年同月を下回った。

業種別で、製造業では…

売上高 ▲30ポイント（前年同月比 20ポイント↓）

収益状況 ▲25ポイント（前年同月比 10ポイント↑）

景況感 ▲45ポイント（前年同月比 30ポイント↓）となり、

収益状況D.I値が前年同月と比べ好転（+10ポイント）したが、「製品の販売価格を10%～20%ほど値上げしたものの、原料価格の上昇分には追いついていない（パン・菓子製造業）」を例に、原材料価格やエネルギーコスト高騰分の転嫁の状況は業種によって大きく偏りがあり、数値の改善が製造業全体の傾向とは言えない状況である。

一方、売上高・景況感D.I値が前年同月を大きく下回った。「医療関係機器の試作や開発も進んでおらず、リピート注文も減少している」と報告のあった電気機械器具製造業では、半導体関連の受注量が前年度月と比べ80%～90%ほど減少し、今年度全体の売上げが昨年度対比で▲50%となった。また、「戸建て住宅の需要が回復するまではまだまだ時間がかかると感じている」（家具製造業）など、先行きが暗い状況が伺えた。

非製造業では…

売上高 +13ポイント（前年同月比 4ポイント↓）

収益状況 +3ポイント（前年同月比 13ポイント↑）

景況感 ▲3ポイント（前年同月比 3ポイント↓）となった。

売上高・景況感D.I値が前年同月を下回った。秋の行楽シーズンに向けて人流の増加が予測される中で、宿泊業では需要に応えられるだけの人員・体制を構築できるか懸念しており、警備業では、警備員不足により新規の受注を断らざるを得ず、「前年同月と比べた売上げは▲10%になった」と、人手不足が売上げ回復の足かせとなっている。

また、飲食品小売業や事務機文具小売業では、天候不順による野菜の品薄状況やメーカーからの仕入れ価格の上昇の影響により、商品販売価格の値上げを余儀なくされているが、消費者の購買意欲の低下による売上げのさらなる減少を危惧している。

中央会では9月の調査に合わせて月次景況調査組合又は企業の今年度下半期の景況感・先行きについて聞いたところ、42社（有効回答数）より回答を得た。下半期の景況感・先行きが「良い」との回答は2%、「どちらでもない」との回答は48%、「悪い」との回答は50%と、大半が先行きを不安に思う見方となっている事が判った。

エネルギーや諸物価の高騰、受注量・売上げの減少、業種を問わず人材の不足が大きな課題として存在し、仕事量の抑制を行う事業者もあるほど深刻な問題となっている。そのうえ、賃上げや労働時間短縮への取り組みなど社会的な要求への対応も大きな課題であり、経営者の高齢化・後継者の不在により事業の継続を断念する事業者の増加も危惧される。

「何か一つの課題を解決すれば済む話ではなく、業界全体で足並みを揃えて他の業界と交渉する必要がある（山砕石）」と、中小企業者・小規模事業者の個々の企業努力には限界がある中で、現下の厳しい経営環境を乗り越えるためには、同じ課題や問題を抱える者同士の連携の力が必要である。中央会では、課題解決に必要な専門家派遣を強化していますので、お気軽にご相談ください。

### ■ 調査員からの国等への要望・コメント ピックアップ!

化学物質の規制の見直しなど、実施内容等について十分な周知期間が設けられないまま、法令の改正ばかりが先行しているように感じる。行政には、体制づくりや教育・研修の期間を十分に確保できるよう配慮を求める。（鉄骨・鉄筋工事業）

業界からのコメント

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	8月まで好調だったおせちの受注量が減少し、前年同月と比べ売上げは88.9%となった。
食料品 (洋菓子製造業)	アイス・ギフト品の売れ行きが伸び悩み、前年同月と比べ売上げは99.1%となった。
食料品 (パン・菓子製造業)	前年同月と比べ製品の販売価格を10%~20%ほど値上げしたが、原料価格の上昇分に追いつかず、収益の確保が困難な状況が続いている。
繊維・同製品 (織物)	加工業者（撚糸、染色、整経）の廃業・倒産が増加しており、経営者の高齢化や後継者不足と併せて産地全体の大きな課題となっている。今後、産地存続のために、関連業種全体で対策を検討して行く必要がある。
木材・木製品製造	前年同月と比べ売上げは8%増加した。大手木材工場の火災により、第二のウッドショックが始まりつつある。
家具製造	戸建て住宅の需要が回復するまではまだまだ時間がかかると感じている。 南アルプス市にコストコやコーセーなどの大手企業が進出してくるため、従業員の流出も懸念している。
窯業・土石 (砂利)	災害対策工事で製品の需要が増加している地域はあるが、工事が少ない地域では需要が少なく、前年同月と比べ売上げは▲10%となった。原材料価格の高騰によって収益確保が困難な状況が続いている。
窯業・土石 (山碎石)	電力、燃料、諸資材料、機械類の価格高騰分の製品価格への転嫁や、従業員の高齢化による人材不足など課題が山積みであり、何か一つを解決すれば済む話ではない。業界全体で足並みを揃えて他の業界と交渉する必要がある。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	半導体関連の受注量が減少しており、前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲5%となった。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	前年同月と比べ売上げ▲25%、収益状況▲23%となった。大手企業を見ると景況感が好転している業界もあるようだが、中小企業は厳しい状況が続いている。 半導体関連・設備関連の受注量の減少が深刻であり、年末以降は改善されるとの情報があるが、先行きは不透明である。
電気機器 (電気機械部品加工業)	前年同月と比べ売上げは▲10%、収益状況は▲15%となった。官公庁の物件の発注が少なく、民間の物件は工期が長期化している。
電気機器 (電気機械部品加工業)	半導体関連の受注量が前年同月と比べ80%~90%ほど減少しており、全体の売上げは▲50%、収益状況は▲40%と非常に厳しい状況が続いている。医療関係機器の試作や開発が進んでおらず、レポート注文も減少しており、先行きは暗い。
宝飾 (研磨)	国内外で多くの展示会が開催されたが、期待していたほどの売上げはなかった。

● 非製造業

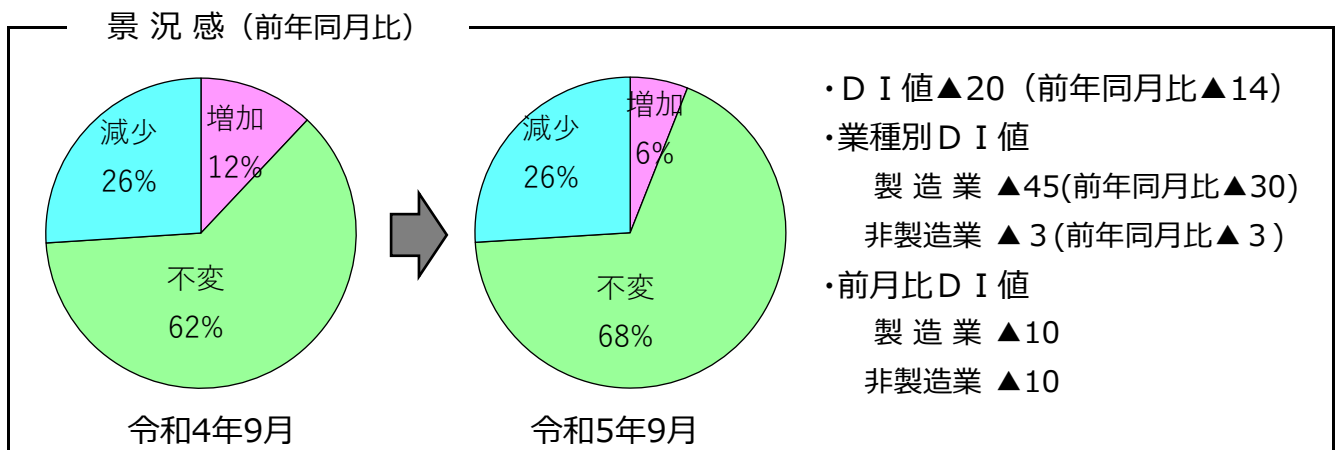
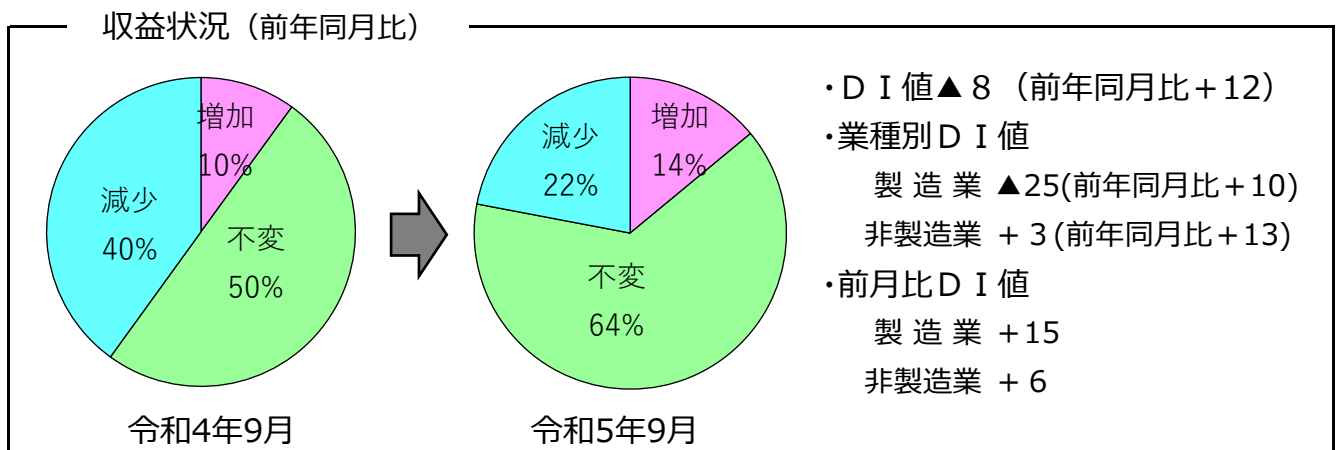
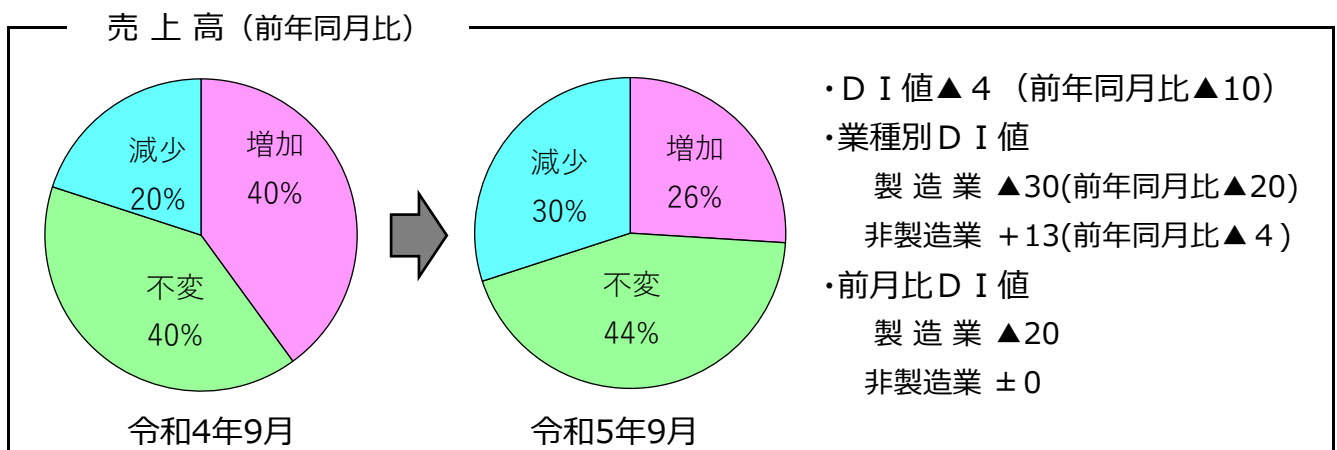
卸売 (水産物)	前年同月と比べ売上げは6%増加した。 多人数の食事会や宴会が増えれば、さらに売上げの増加を期待できるが、現状は厳しい。
卸売 (ジュエリー)	9月は、国内のみならずタイやバンコク、香港など海外で多くの展示会が開催され、組合員の多くが出展したが、売上げは芳しくなかった 世界的な品薄状況により色石の価格が高騰していることに加え、円安の影響により、金・地金の価格も1gあたり1万円を超えているため、製造コストが上昇しているが、商品価格への転嫁は困難である。
小売 (青果)	前年同月と比べ売上げは▲10%となった。天候不順により野菜が品薄状況であり、仕入れ価格も高騰している。
小売 (水産物)	10月に商品の販売価格の値上げを予定しているため、買い控えによる売上げの減少を危惧している。

小 売 (電気機械器具小売業)	省エネ機器の需要増加により、エアコンの売れ行きが好調であったが、冷蔵庫の売れ行きは低調であったため、前年同月と比べ売上げは▲10%となった。
小 売 (事務機小売業)	メーカーからの仕入れ価格の上昇に伴い、販売価格も値上げせざるを得ない状況である。
小 売 (ガソリン)	9月末で終了する予定であった燃料油価格激変緩和対策補助金が、原油価格の高止まりや円安の影響によって12月末まで延長された。卸売価格は下がっているが、組合員は価格が高い時期に仕入れた在庫を抱えているため、その調整や仕入れのタイミングに悩まされている。
商店街	組合が管理する駐車場の売上げは増加しているが、物価高騰による消費動向の停滞により、商店街の客足は回復せず、厳しい状況が続いている。また、人手不足や最低賃金の上昇など課題は山積みである。
宿泊業	夏休みが終了し人流の落ち着きを感じるが、施設の予約状況は安定している。人手不足が深刻であり、秋の行楽シーズンに向けて、観光客の増加に対応できる体制を構築できるか不安である。
産業廃棄物処理	前年同月と比べ売上げは▲8%、収益状況は▲4%となった。燃料費の高騰、最終処分場の受入制限及び処分費の上昇など課題は山積みである。
一般廃棄物処理	県内の一般廃棄物処理センターの集約化が約7年後に完了予定であるが、実用性のあるものになるかどうか、業界関係者は不安を抱えている。
警 備 業	前年同月と比べ売上げは▲10%となった。9月は公共工事の現場が多かったが、警備員不足により現在受注している現場で手一杯のため、新規の受注を断っている状況である。体調不良による休業者や高齢による退職者が多く、賃上げを含め待遇を改善して警備員を募集しているが、人材を確保できていない。今後は、工事だけでなく、信玄公祭りなどの大きなイベントが増加する時期であるため、受注困難な業務がさらに増加すると考える。
建設業 (総合)	9月の県内公共工事は、前年同月に比べ件数は13%増加し、請負金額は9%増加した。9月末累計の件数は1%増加したが、請負金額は▲2%となった
建設業 (型 枠)	働き方改革（建設業の時間外労働上限規制）や、資材価格の高騰により経営状況は悪化する一方である。東京の大手ゼネコンが山梨県の倍ほどの日当で地方から職人を集めているため、県内の職人が多く流出している。深刻な人手不足により受注を断らざるを得ない状況である。
建設業 (鉄 構)	鋼材や溶材、副資材などの価格が高止まりしている。首都圏では工期の遅延はあるものの再開発工事が活発であるが、県内は公共物件の発注が少なく停滞感がある。
設備工事 (電気工事)	物価高騰による消費活動の低迷を感じている。電気工事業界では、仕事量は確保できているが、原材料価格の高騰による収益状況の悪化が課題である。
設備工事 (管設備)	前年同月と比べ売上げは30%増加、収益状況は45%好転した。月ごとに原材料や燃料などの価格が変動しており、収益状況も安定しない。
運 輸 (タクシー)	前年同月と比べ売上げは20%増加した。11月末まで、デマンド型乗り合いタクシー（※）の試験運行が甲府市（大里地区、相川地区）で行われており、対象地域は限られているが、交通弱者の移動手段として利用者の増加を期待している。 （※）デマンド型乗り合いタクシー：70歳以上を対象に、自宅と市内で指定された目的地（公共施設、医療機関、商業施設）までの間をつなぎ、乗合タクシー。事前の利用者登録が必要（甲府市に申請）で、乗車には前日までの事前予約が必要。
運 輸 (トラック)	人手不足が深刻化しており、燃料価格の上昇分を運賃に転嫁することもできず、経営状況は悪化する一方で、好転する兆しも見られない。「2024年問題」への対応に迫られる中、燃料価格の高騰・人手不足を解決しない限り、業界の先行きは暗い。

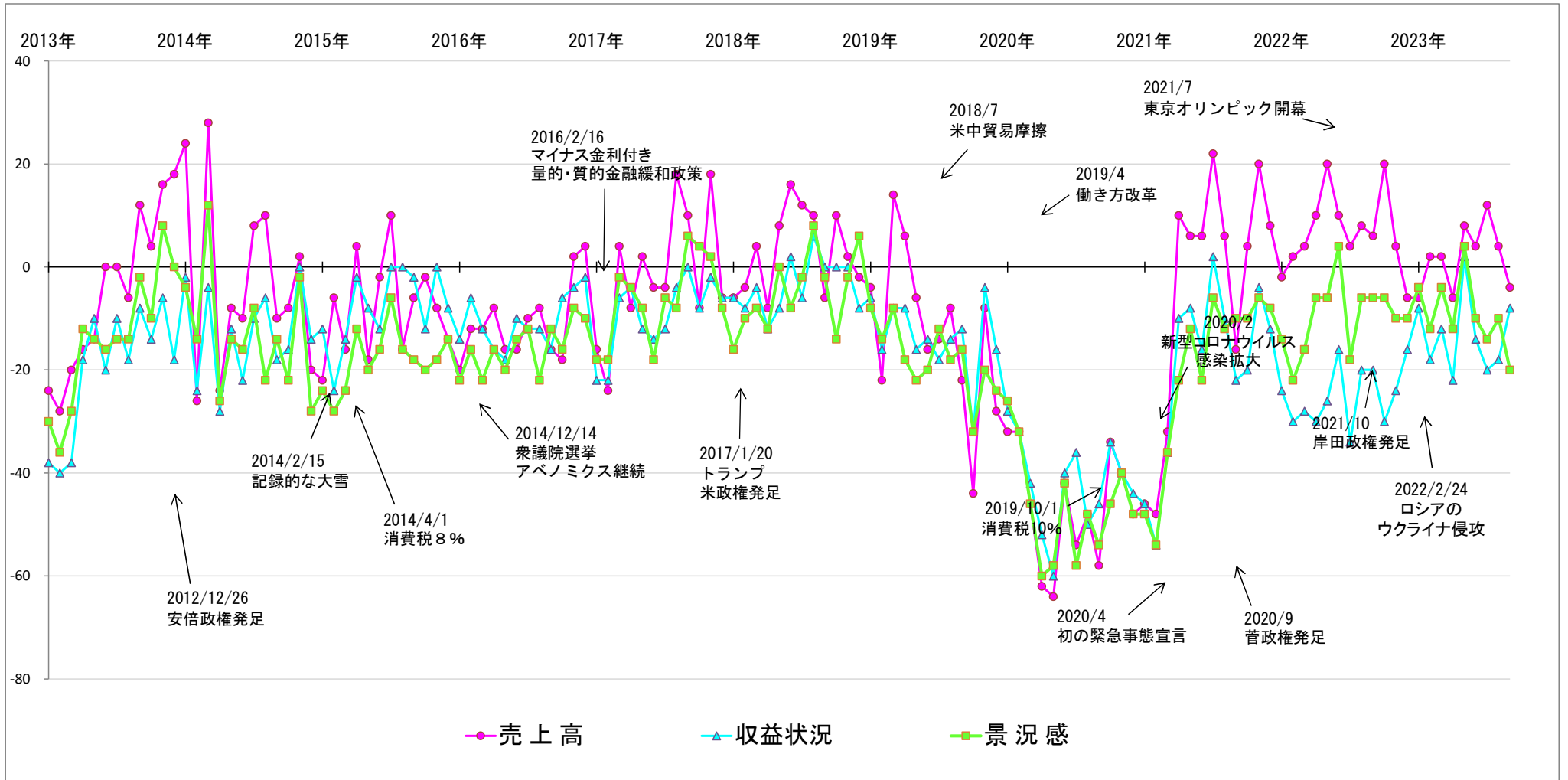
■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2022年9月	2023年8月	2023年9月	2022年9月	2023年8月	2023年9月	2022年9月	2023年8月	2023年9月
売上高	▲ 10	▲ 10	▲ 30	17	13	13	6	4	▲ 4
収益状況	▲ 35	▲ 40	▲ 25	▲ 10	▲ 3	3	▲ 20	▲ 18	▲ 8
景況感	▲ 15	▲ 35	▲ 45	0	7	▲ 3	▲ 6	▲ 10	▲ 20

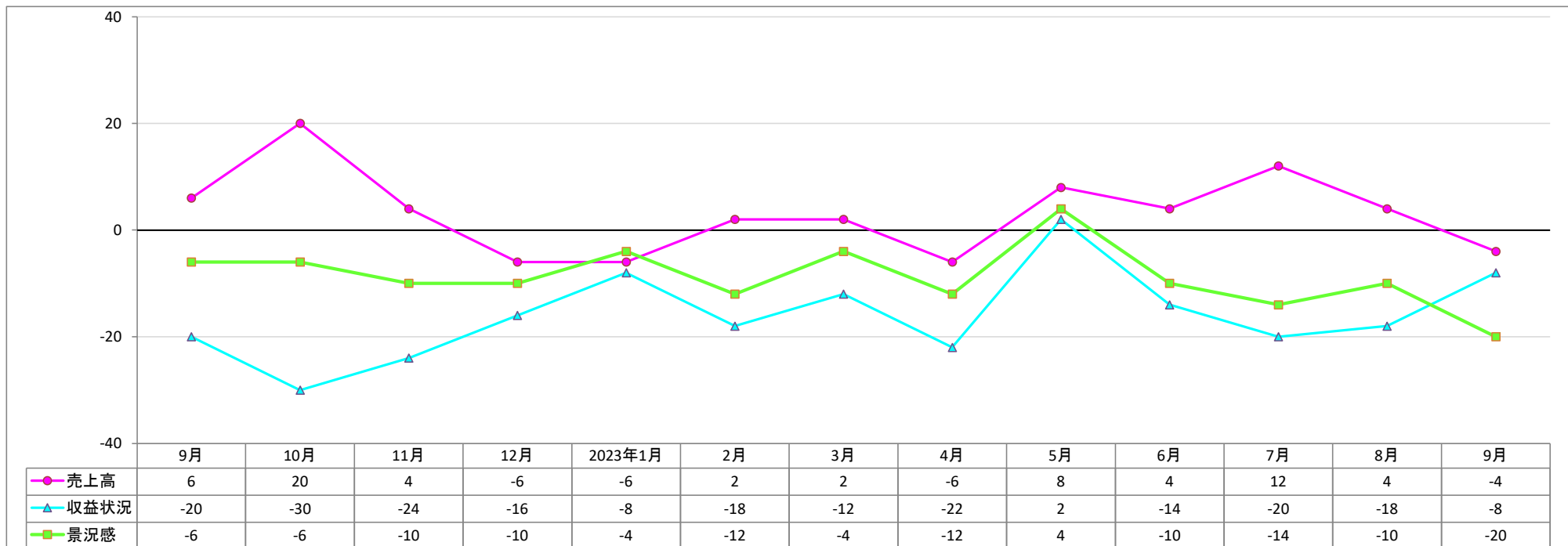
※( (良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値



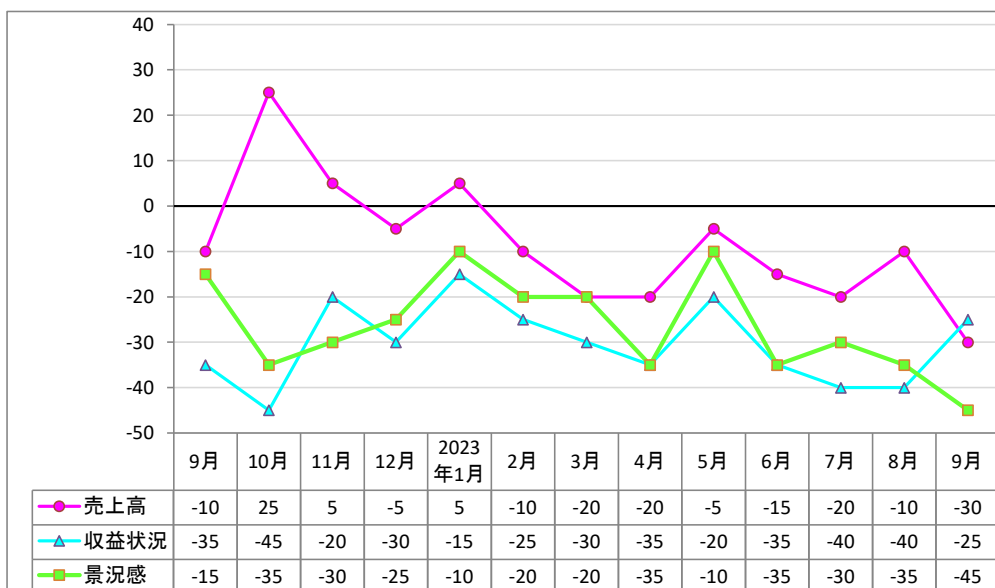
# D.I値の推移①(過去10年間) 2013年1月~2023年9月



# D.I値の推移②(過去1年間) 2022年9月~2023年9月



## 【製造業】



## 【非製造業】

